

総 説

VHL 遺伝子：淡明細胞腎癌の原因遺伝子の同定と その腫瘍化機構

矢 尾 正 祐

横浜市立大学大学院医学研究科 泌尿器科学

要 旨：腎癌は，腎実質に発生する悪性腫瘍の約90%を占める．その発症機構に関しては，過去30年にわたる分子遺伝学・分子生物学的解析，とりわけ遺伝性腎腫瘍症候群の解析とそれらの原因遺伝子の同定をきっかけとして，その分子腫瘍化機構がもっともよく理解されてきた腫瘍といえる．腎癌のうち最も頻度の高い病理組織型が淡明細胞型であり，腎癌全体の80%を占め，その遺伝子背景としてはVHL 癌抑制遺伝子の不活性化が特徴的である．VHL 遺伝子の単離とこの遺伝子を中心とした腎癌の発症機構，分子標的薬開発の知見について概説した．

Key words: 腎癌, VHL 遺伝子, 癌抑制遺伝子